

理学療法学科

1年次科目

【必修科目】

理学療法学概論	13	保健医療臨床心理学	25
解剖学Ⅰ	21	【選択科目】	
解剖学演習	21	関係法規(理学・作業)	25
生理学Ⅰ	22	感染・免疫学	26
生理学演習	22	生化学	24
精神医学Ⅰ	23	生活支援環境学	24
運動学Ⅰ	13	薬理学概論	23
基礎理学療法学	14		

2年次科目

【必修科目】

医療英語 a	81	小児科学	76
医療英語 b	82	神経内科学Ⅰ	76
運動学Ⅱ	46	神経内科学Ⅱ	77
解剖学Ⅱ	74	整形外科Ⅰ	77
解剖学実習	74	整形外科Ⅱ	78
理学療法学基礎実習	46	生理学実習	79
理学療法機器技術学	47	病態学Ⅰ	79
機能・能力診断学	47	リハビリテーション医学	80
機能・能力診断学実習	48	内科学	82
機能・能力診断学臨床実習	48	脳神経外科学	83
筋・骨格系理学療法学	49	【選択科目】	
筋・骨格系理学療法学実習	49	外科学	75
中枢神経系理学療法学	50	公衆衛生学	81
中枢神経系理学療法学実習	50	精神医学Ⅱ	78
日常生活活動学	51	病態学Ⅱ	80

3年次科目

【必修科目】

運動学実習	93	徒手技術学Ⅰ実習	100
臨床運動学	93	徒手技術学Ⅱ	100
義肢装具学	94	徒手技術学Ⅱ実習	101
義肢装具学実習	94	日常生活活動学実習	101
物理療法学	95	理学療法学セミナー	102
物理療法学実習	95	【選択科目】	
神経・筋系理学療法学	96	教育心理学	130
神経・筋系理学療法学実習	96	社会心理学	130
心肺系理学療法学	97	障害児教育論	131
心肺系理学療法学実習	97	精神保健学	131
小児理学療法学	98	画像診断学	132
高齢者理学療法学	98	老年医学	133
総合臨床実習Ⅰ	99	健康管理論	75
徒手技術学Ⅰ	99	言語聴覚治療学概論	132

4年次科目

【必修科目】

理学療法研究法	146	運動学習	150
地域理学療法学	146	代謝系理学療法学	151
総合臨床実習Ⅱ	147	スポーツ系理学療法学	151
生活環境学	147	臨床心理学演習	166
職業倫理職場管理学	148	リハビリテーション工学	166
【選択科目】		ケア・マネジメント論	167
症例研究法	148	救急医学	167
地域理学療法学実習	149	生理学Ⅱ	168
高次神経機能障害理学療法学	149	障害者とスポーツ論	168
卒業研究	150		

科目名	M078 理学療法学概論	科目種別	理学・1年・必修	単位数	1
担当教員	浅川 康吉	前期・前半	火曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	①理学療法学科における最初の専門科目であるため、理学療法学の概要を理解することを授業方針とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②筋力評価や歩行練習などの具体例を通じて、理学療法学の基本的知識を習得するとともに、理学療法士の職能・職域についても理解を深めることを目標とする。				
③授業計画・内容	③ 1回 理学療法の定義・歴史 2回 理学療法評価 3回 運動療法 4回 物理療法 5回 日常生活活動と社会参加へのアプローチ 6回 多職種連携 7回 理学療法士の職能・職域 8回 まとめ・試験と解説				
④テキスト・参考書	④教科書：なし。授業時に資料を配布します。				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験 100%で評価する。				
⑥特記事項					

科目名	M085 運動学 I	科目種別	理学・1年・必修	単位数	2
担当教員	新田 収、新井 光男	後期	火曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	①理学療法学の専門基礎に相当するため、運動学の概要・基礎を理解することを授業方針とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②運動学の基本的概念・身体メカニズムを骨・関節・筋・神経系からなる運動器を主体に学習し、さらに運動解析・運動発達の過程などを理解することを授業目標とする。				
③授業計画・内容	③1. 運動学とは 2. 身体運動の力学 I 3. 身体運動の力学 II 4. 運動器の構造と機能 I. 5. 運動器の構造と機能 II. 6. 運動器の構造と機能 III. 7. 運動の中枢神経機能 8. 感覚器の構造と機能 I 9. 感覚器の構造と機能 II. 10. 呼吸・循環機能. 11. 運動・動作分析 I 12. 運動・動作分析 II 13. 運動発達 14. 運動学習 I 15. 運動学習 II				
④テキスト・参考書	④テキスト：基礎運動学第6版 参考書：運動学，リハビリテーション医学講座第3巻，斎藤宏・他，医歯薬出版				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験(90%)・出席(10パーセント)：新井・新田				
⑥特記事項					

科目名	M086 基礎理学療法学	科目種別	理学・1年・必修	単位数	2
担当教員	網本 和、新田 収	後期	火曜日	5 時限	
①授業方針・テーマ	①専門職教育としてはじめて出会う授業である。職業の全体像を描きながら、基本の用語を身につけ、基礎的技術について理解することを目的とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②理学療法学の基本的知識を学ぶ教科目である。理学療法技術の全体像、主目標としての動作機能の回復に必要な基礎的方法とそのための基礎知識について学ぶ。				
③授業計画・内容	③下記の内容を教授する。 1 回 理学療法の概要 運動療法の歴史 2 回 理学療法の目標, 医学的リハビリテーションでの役割 3 回 理学療法の進め方(検査と評価) 4 回 基本的身体動作機能と運動学 5 回 運動療法の目的 6 回 身体運動の種類 1 7 回 身体運動の種類 2 8 回 関節可動域 9 回 筋の生理と筋力 10 回 筋力増強 11 回 身体運動持久力 12 回 筋持久力 13 回 触診 14 回 協調性 15 回 姿勢反射				
④テキスト・参考書	④理学療法ハンドブック第1巻, 2巻 基礎運動学				
⑤成績評価方法	⑤最終試験により評価する。担当教員ごとに出席条件を満たすことが受験条件。かつ担当教員ごとの試験に合格点を取得すること。				
⑥特記事項					

科目名	M073 運動学Ⅱ	科目種別	理学・2年・必修 クラス指定	単位数	2
担当教員	竹井 仁、古川 順光	前期	火曜日		2 時限
①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 ④テキスト・参考書 ⑤成績評価方法 ⑥特記事項	<p>①理学療法の基礎となる運動学の各論について講義する。</p> <p>②運動学Ⅰに引き続き、身体各部位の機能解剖学を骨・関節・筋・神経などの構成要素ごとに具体的に学び、さらにそれらが実際の個々の身体運動でどのような働きをするのかについて学習する。また、正常・異常姿勢、栄養とエネルギー代謝、正常・異常歩行などについても学習する。</p> <p>③内容 項目1. 骨運動学と関節運動学と筋運動学 項目2. 上肢帯 項目3. 肩関節 項目4. 肘関節、前腕 項目5. 手関節、手 項目6. 骨盤帯 項目7. 股関節 項目8. 膝関節 項目9. 足関節、足 項目10. 体幹 項目11. 顎関節、顔面、頭部 項目12. 姿勢 項目13. 栄養とエネルギー代謝 項目14. 体力適正と運動処方 項目15. 正常歩行と異常歩行</p> <p>④教科書：「基礎運動学第6版」中村隆一・斎藤宏・長崎浩 医歯薬出版 「触診機能解剖カラーアトラス上・下巻」竹井仁 文光堂 「ビジュアル版 筋肉と関節のしくみがわかる事典」竹井仁 西東社 参考書：「正しく理想的な姿勢を取り戻す 姿勢の教科書」竹井仁 ナツメ社 「筋骨格系のキネシオロジー」嶋田智明・平田総一郎監訳 医歯薬出版 「運動学」丸山仁司編 中外医学社 「カバンジー機能解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」塩田悦仁 訳 医歯薬出版 「図解関節・運動器の機能解剖」井原英俊他訳 協同医書出版</p> <p>⑤筆記試験にて評価する。</p>				

科目名	M083 理学療法学基礎実習	科目種別	理学・2年・必修	単位数	1
担当教員	新田 収、来間 弘展	前期	金曜日		3, 4 時限
①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 ④テキスト・参考書 ⑤成績評価方法 ⑥特記事項	<p>①理学療法専門教育の基礎を学び、理学療法士の働く職場の見学などを通じて将来へのイメージをもつ。</p> <p>②車いすに関する知識と適合技術、移乗技術、介助方法とその伝達技術を学ぶ。 四肢・体幹の骨指標を触診することができる。骨指標を基に、四肢体幹の計測を一人で行うことができる。杖・松葉杖の種類と計測方法を習得する。</p> <p>③項目 1: 骨・関節の触診(上肢) 項目 2: 骨・関節の触診(下肢) 項目 3: 骨・関節の触診(体幹) 項目 4: 四肢体幹計測法 1 項目 5: 四肢体幹計測法 2 項目 6: 四肢体幹計測法 3・病院見学事前学習 1 項目 7: 病院見学実習1 項目 8: 見学報告1・トランスファー基礎実習 項目 9: 触診・四肢長, 周径実技試験 項目10: 高齢者など障害疑似体験・病院見学事前学習 2 項目11: 病院見学実習2 項目12: 見学報告会2・杖の種類と使用法 1 項目13: 杖の種類と使用法 2, 電動車いす使用法 項目14: 車いす使用法 項目15: 試験と解説</p> <p>④教科書：触診機能解剖カラーアトラス(上)総論：身体の面と軸・骨/関節：靭帯 文光堂 岸清他</p> <p>⑤実技 30%、筆記テスト 50%、レポート 20%</p>				

科目名	M075 理学療法機器技術学	科目種別	理学・2年・必修	単位数	1
担当教員	山田 拓実	前期・前半	月曜日		3時限
①授業方針・テーマ	①理学療法では、身体機能の検査・測定のために筋力測定器、3次元動作解析装置、心電図、エネルギー代謝測定装置など、そして、訓練機器として平行棒や重錘の他、筋力増強機器や電気刺激機器などの多種多様な機器を使用する。本講義では、このような機器を適切に使用するための基礎的事項、注意事項、使用上の技術などを学習する。機器についての学習は運動学実習などの授業の基礎となる。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②機器使用についての注意事項を習得し、また、機器の性能を理解し、適正に利用できる基礎を習得する。				
③授業計画・内容	③次の予定で講義する。 1 回理学療法機器の概要 2 回計測機器の性能・使用法 3 回計測機器の性能・使用法 4 回治療機器の原理・使用法 5 回治療機器の原理・使用法 6 回理学療法での応用、適応と禁忌 7 回機器の保守・管理 8 回まとめ				
④テキスト・参考書	④教科書：無し 参考書：初学者のための生体機能の測り方 橋本成広、生体計測工学入門、コロナ社、2000				
⑤成績評価方法	⑤小試験(20%)および、最終試験(80%)により評価する。				
⑥特記事項					

科目名	M071 機能・能力診断学	科目種別	理学・2年・必修	単位数	2
担当教員	古川 順光、来間 弘展	前期	水曜日		1, 2時限
①授業方針・テーマ	①神経・筋骨格系疾患の運動機能障害の評価方法である徒手筋力検査方法 MMT(manual muscle testing)の原理・手順・方法を学び、解剖学・運動学を復習しながら各筋の検査法について実技をおこない、理学療法検査法について学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②MMTの原理・手順・方法を習得し、説明できる。模擬患者に対し、MMTを実施することができる。				
③授業計画・内容	③ 1.徒手筋力テスト講義・実習(総論・上肢帯) 2.徒手筋力テスト講義・実習(上肢帯の筋) 3.徒手筋力テスト講義・実習(上肢帯の筋) 4.徒手筋力テスト講義・実習(上肢の筋) 5.徒手筋力テスト講義・実習(上肢の筋) 6.徒手筋力テスト講義・実習(上肢の筋) 7.徒手筋力テスト講義・実習(下肢の筋) 8.徒手筋力テスト講義・実習(下肢の筋) 9.徒手筋力テスト講義・実習(下肢の筋) 10.徒手筋力テスト講義・実習(下肢の筋) 11.徒手筋力テスト講義・実習(頸部・体幹の筋) 12.徒手筋力テスト講義・実習(頸部・体幹・顔面の筋) 13.徒手筋力テスト講義・実習(高齢者実習) 14.徒手筋力テスト講義・実習・実技試験(体幹・上肢・下肢の筋) 15.徒手筋力テスト講義・実習・実技試験(体幹・上肢・下肢の筋)				
④テキスト・参考書	④教科書：新・徒手筋力検査法 原著第9版[DVD付]Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery 著、津山直一、中村耕三 訳 協同医書出版社				
⑤成績評価方法	⑤発表・小テスト(20%)・筆記試験(40%)・実技試験(40%)で評価する。				
⑥特記事項	⑥授業中に実技を行うので、実技に適した服装を用意し、授業に臨むこと。				

科目名	M081 機能・能力診断学実習	科目種別	理学・2年・必修 クラス指定	単位数	2
担当教員	池田由美、網本和、古川順光、来間弘展(前期) 池田由美、古川順光、来間弘展、網本和、望月久*	通年	木曜日	1,2,3,4,5 時限	
①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容	<p>①②理学療法士として患者の身体的な問題点を把握するため、評価(患者の観察、検査・測定、データの記録、データの統合と解釈)、治療到達目標(ゴール)の設定、理学療法プログラムの作成と実施、再評価を行う。これらの一連の評価の過程を理解し、実施できるようになることを目的とする。</p> <p>③項目 1. 評価とは 項目 2. 病歴の取り方(問診) 項目 3. 痛みの検査 項目 4. 筋トーン検査 項目 5. 反射検査 項目 6. 知覚検査 項目 7. 関節可動域測定(総論と予備的検査) 項目 8. 関節可動域測定(上肢) 項目 9. 関節可動域測定(下肢) 項目 10. 関節可動域測定(体幹・頸部) 項目 11. 協調性検査 項目 12. 脳神経検査 項目 13. 姿勢反射・バランス 項目 14. 運動発達検査 項目 15. 片麻痺運動機能検査 I</p> <p>項目 16. 片麻痺運動機能検査 II 項目 17. 高次脳機能検査 I 項目 18. 高次脳機能検査 II 項目 19. 知能検査・認知症・意識障害 項目 20. 筋触診(上肢) 項目 21. 筋触診(下肢) 項目 22. 筋触診(体幹) 項目 23. 姿勢分析 項目 24. 歩行分析 項目 25. 正常動作分析・異常動作分析 項目 26. バイタルサイン 項目 27. 臨床応用(脳卒中片麻痺) 項目 28. 臨床応用(整形外科疾患) 項目 29. 記録の取り方(POS と FOR) 項目 30. 実技試験とまとめ</p>				
④テキスト・参考書	<p>④教科書: 「ベッドサイドの神経の診かた 改訂第 18 版」田崎義昭他 南山堂, 2016. 「触診機能解剖カラーアトラス上・下巻」竹井仁 文光堂 「測定と評価」和才嘉昭・嶋田智明 医歯薬出版</p> <p>参考書: 「理学療法評価学テキスト」細田多穂監修・星文彦他編南江堂(推奨) 「理学療法評価法 そのクリニカルアプローチ」嶋田智明 メディカルプレス 「理学療法評価法第 3 版」千住秀明監修 神陵文庫 「理学療法評価学 改訂第 5 版」松沢正 金原出版 「理学療法評価学第 2 版」奈良勲監修・内山靖編 医学書院 「脳性麻痺の反射検査第 2 版」小池文英訳 医歯薬出版 「運動発達と反射」真野行生監訳 医歯薬出版 「臨床動作分析」奈良勲監修・高橋正明編 医学書院</p>				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験 65%, 実技試験(口頭試問も含む)20%, レポート 10%, 小テスト 5%で総合評価する。				
⑥特記事項	⑥授業中に実技を行うので、実技のできる洋服・靴等(サンダル不可)を用意すること。 前期 1~3 限, 後期 3~5 限				

科目名	M101 機能・能力診断学臨床実習	科目種別	理学・2年・必修	単位数	3
担当教員	網本 和、来間弘展、竹井 仁、池田由美、 新田 収、山田拓実、古川順光、新井光男	後期			
①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容	<p>①②すでに学習した機能・能力診断学に関する理論と技術等を基にして、臨床場面(病院・施設)で臨床実習指導者の指導・監督のもとに、理学療法に関する基本的な評価方法を理解し、同時に基本的な技術の実践能力を習得する。</p> <p>③臨床実習前に学内で臨床実習に関するオリエンテーションを行う。3週間の臨床実習を終了後に臨床場面で学んだ事柄を基にセミナーを実施する。セミナーはグループに分かれて実施する。</p>				
④テキスト・参考書					
⑤成績評価方法	⑤評価は、臨床実習指導者による評価点と、学内でのセミナー(出席点・発表点・質疑応答内容・レポート点)により総合的に判定する。				
⑥特記事項					

科目名	M094 筋・骨格系理学療法学	科目種別	理学・2年・必修 クラス指定	単位数	1
担当教員	竹井 仁、宇佐 英幸		後期・前半		火曜日
①授業方針・テーマ	①運動器疾患に対する理学療法について基本的な講義と実技を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②本講義では、筋・骨格系疾患に共通する基礎的な身体構造を学び、その理学療法に関する基礎的な知識と技術を習得する。この科目は、筋・骨格系理学療法実習へとつながる科目として位置づける。				
③授業計画・内容	③内容 項目1. 姿勢の評価①項目2. 姿勢の評価②項目3. 骨運動学を用いた上肢の関節可動域改善運動(ROM ex.) 項目4. 骨運動学を用いた下肢の関節可動域改善運動(ROM ex.) 項目5. 関節運動学を用いた上肢の関節可動域改善運動(ROM ex.) 項目6. 関節運動学を用いた下肢の関節可動域改善運動(ROM ex.) 項目7. 等尺性収縮後弛緩・相反抑制・ストレッチング他 項目8. 1RMと1IM				
④テキスト・参考書	④教科書: 「正しく理想的な姿勢を取り戻す 姿勢の教科書」竹井仁 ナツメ社 「触診機能解剖カラーアトラス 上・下巻」竹井仁 文光堂 その他:資料配付				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験(72%)、レポート(8%)、実技試験(20%)で総合評価する。 レポート提出期限までにレポート未提出の場合、筆記試験と実技試験は受験出来ない。				
⑥特記事項	⑥授業中は実技を行うので、実技のできる洋服・靴等(サンダル不可)を用意すること。				

科目名	M092 筋・骨格系理学療法実習	科目種別	理学・2年・必修 クラス指定	単位数	1
担当教員	竹井 仁、宇佐 英幸、信太 奈美		後期		火曜日
①授業方針・テーマ	①筋骨格系疾患として理学療法士が対象とする主な疾患を取りあげ、その理学療法について講義と実技を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②適切な理学療法を実施するためには、評価項目の選択と実施、その結果からの妥当な評価、評価に基づく疾患ごとの運動療法の実施が必要となる。本講義では、筋・骨格系理学療法に引き続き、実際の筋・骨格系疾患を中心にこれらの一連の過程について基礎となる知識及び技術を習得する。				
③授業計画・内容	③内容 項目1. 骨折 項目2. 変形性関節症 項目3. 関節リウマチ 項目4. 課題グループ発表(骨折・変形性関節症) 項目5. CRPS(複合性局所疼痛症候群) 項目6. 頸肩腕症候群 項目7. 胸郭出口症候群 項目8. 頸椎症 項目9. 肩関節周囲炎 項目10. 腰痛症 項目11. 体幹のスポーツ外傷・障害 項目12. 上肢のスポーツ外傷・障害 項目13. 下肢のスポーツ外傷・障害 項目14. メディカルトレーニングセラピー 項目15. テーピング実習・障害者スポーツ				
④テキスト・参考書	④教科書:筋・骨格系理学療法実習テキスト(初講日に配付) 参考書:「ここがポイント 整形外科疾患の理学療法」富士武史 金原出版 「整形外科術後理学療法プログラム」島田洋一・高橋仁美 メジカルビュー社 「評価から治療手技の選択」丸山仁司・黒澤和生・斎藤昭彦・竹井仁 他 文光堂				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験(75%)、実技試験(20%)、レポート(5%)で総合評価する。 レポート作成に関わらなかった者や提出に遅れた者は、筆記試験と実技試験を受験出来ない。				
⑥特記事項	⑥授業中は実技を行うので、実技のできる洋服・靴等(サンダル不可)を用意すること。 複数の教員で行うので、各教員につき出席日数を計算する。				

科目名	M095 中枢神経系理学療法学	科目種別	理学・2年・必修	単位数	1
担当教員	新井 光男		後期・前半		水曜日
①授業方針・テーマ	①理学療法で最も数多く体験する脳卒中患者の障害像を理解することを授業方針とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②脳卒中片麻痺患者の評価・治療法を学習し、この疾病に対する妥当な理学療法を施行できることを授業目標とする。				
③授業計画・内容	③1回 脳卒中患者の理学療法—エビデンスに基づいたアプローチ法 2回 痙縮の病態と筋力強化の必要性 3回 急性期の理学療法 4回 回復期の理学療法 5回 維持期の理学療法 6回 理学療法アプローチ例① 7回 理学療法アプローチ例② 8回 理学療法アプローチ例③				
④テキスト・参考書	④参考書:「理学療法ハンドブック第4版 第1巻・第2巻」細田多穂・他編 協同医書出版 プリントを配布します。				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験:50% レポート:40% 出席点:10%				
⑥特記事項					

科目名	M097 中枢神経系理学療法学実習	科目種別	理学・2年・必修 クラス指定	単位数	1
担当教員	浅川 康吉、新井 光男、 新田 収、高倉 保幸 *		後期		水曜日
①授業方針・テーマ	①中枢神経系障害の代表的疾患として脳血管障害、パーキンソン病、脳性麻痺などを取り上げ、これらの疾患の理学療法について講義と実習を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②【浅川・新井】パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症などを例に経過が長く機能障害が進行する患者に対する評価、治療、心理的支援等について学習する。 【新田】小児の代表的運動障害とされる脳性麻痺を中心に、運動発達障害について理解するとともに、運動障害の治療法の内容、具体的方法手技について学習する。 【高倉】脳卒中疾患の急性期理学療法についてリスク管理を中心に学習する。				
③授業計画・内容	③ 1回:パーキンソン病の理学療法(1) 2回:パーキンソン病の理学療法(2) 3回:多発性硬化症の理学療法(1) 4回:多発性硬化症の理学療法(2) 5回:小児の中枢神経系障害 6回:運動発達① 7回:運動発達② 8回:姿勢反射評価 9回:その他の評価 10回:小児の装具、補助具 11回:脳卒中の急性期理学療法(1) 12回:脳卒中の急性期理学療法(2) 13回:脊髄小脳変性症の理学療法(1) 14回:脊髄小脳変性症の理学療法(2) 15回:まとめ、試験と解説				
④テキスト・参考書	④教科書【新田収】「PT・OTのための発達障害ガイドブック」金原出版 2012				
⑤成績評価方法	⑤【新井光男・浅川康吉】筆記試験・実技試験 【新田収】筆記試験 【高倉保幸】筆記試験 総合成績により評定。担当教員ごとに筆記試験で合格すること。				
⑥特記事項					

科目名	M089 日常生活活動学	科目種別	理学・2年・必修	単位数	1
担当教員	池田 由美	後期・前半	水曜日	1, 2 時限	
①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	①②日常生活活動とは人間が生活していく上で毎日繰り返される基本的な生活動作である。食事・排泄・入浴・整容・更衣動作と起居・移動動作、コミュニケーションについて学ぶ。それぞれの動作について、運動学的視点に加えて、生活や活動の視点にたつて、障害児・者ならびに高齢者の生活をイメージすることができるようになることを目標とする。				
③授業計画・内容	③項目1 日常生活活動と評価 項目2 食事動作 項目3 排泄動作 項目4 入浴動作 項目5 更衣・整容動作 項目6 起居・移動動作Ⅰ 項目7 起居・移動動作Ⅱ 項目8 住宅改修、全体のまとめ				
④テキスト・参考書	④教科書：「標準理学療法学(日常生活活動・生活環境学)」第4版 鶴見隆正(編) 医学書院 2012 「姿勢と動作-ADLとその基礎から応用-」第3版 齋藤宏・矢谷令子・丸山仁司 メヂカルフレンド社 2010 参考書：「ADLとその周辺-評価・指導・介護の実際-」第3版 伊藤利之・鎌倉矩子(編) 医学書院 2015 「服部リハビリテーション技術全書」第3版 蜂須賀研二(編) 医学書院 2014				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験 70%, 実技試験 30%				
⑥特記事項	⑥授業中に実技を行うので、実技のできる服装・靴等(サンダル不可)を用意すること。				

科目名	M080 運動学実習	科目種別	理学・3年・必修	単位数	1
担当教員	池田 由美 他	前期		水曜日	3, 4 時限
①授業方針・テーマ	①1クラス4班(1班:10名)に分かれて、8項目の運動学実験をローテーション形式で行い、実験結果をレポートにまとめ提出し、その内容について発表を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②運動学Ⅰ・Ⅱで得られたヒトの運動に関する知識について、観察や計測機器を用いて分析することを通して、運動学に関する事象を確認することを授業目標とする。				
③授業計画・内容	③ 1回:オリエンテーション 2回:筋と関節運動① 3回:筋と関節運動② 4回:動作分析① 5回:動作分析② 6回:運動学習 7回:歩行 8回:呼吸・循環とエネルギー代謝① 9回:呼吸・循環とエネルギー代謝② 10回:発表 11回:発表				
④テキスト・参考書	④参考書:「運動学実習」第3版 中村隆一・長崎浩・齋藤宏 医歯薬出版 「基礎運動学」第6版 中村隆一・齋藤宏・長崎浩 医歯薬出版				
⑤成績評価方法	⑤レポート80% 出席20%				
⑥特記事項					

科目名	M084 臨床運動学	科目種別	理学・3年・必修	単位数	2
担当教員	網本 和、赤坂 清和*、大淵 修一*	前期・前半		金曜日	3, 4 時限
①授業方針・テーマ	①運動学および運動学実習で習得した知識技術を理学療法対象疾患に応用し運動学的に考察する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②座位、立位、歩行の加齢変化を考察し、さらに運動失調、パーキンソン病、片麻痺などの障害別特性を論ずる。				
③授業計画・内容	③ 1回:臨床運動学総論 2回:生体力学の基礎 3回:基本動作の観察と分析 4回:臨床における動作分析の進め方と展開 5回:臨床運動学的問題点の抽出と具体的治療方針A 6回:臨床運動学的問題点の抽出と具体的治療方針B 7回:運動力学における歩行分析の基礎 8回:姿勢歩行の加齢変化 9回:運動失調症の姿勢と歩行 10回:パーキンソンの姿勢と歩行 11回:片麻痺の姿勢と歩行A 12回:片麻痺の姿勢と歩行B 13回:その他の疾患の姿勢と歩行A 14回:その他の疾患の姿勢と歩行B 15回:筆記試験及びまとめ				
④テキスト・参考書	④テキストは特に定めない。				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験およびレポート課題				
⑥特記事項	⑥運動学の内容を復習する必要がある。解剖学、生理学の十分な理解が前提となる。				

科目名	M074 義肢装具学	科目種別	理学・3年・必修	単位数	1
担当教員	山田 拓実	前期・前半	火曜日		4,5 時限
①授業方針・テーマ	①患者・障害者の運動・行動能力を補完する用具として義肢装具がある。本講では装具を中心に各種装具の種類や使用目的、取得方法について講義する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②治療訓練場面や日常生活場面で各種障害状況に対応した装具の選択、使用方法を身につけることが目標である。				
③授業計画・内容	③1回: 装具学総論 2回: 下肢装具の部品と機能 3回: 下肢装具の種類と構成要素 4回: 下肢装具のチェックアウトと臨床応用 5回: 靴型装具 6回: 頸体幹装具と座位保持装置 7回: 上肢装具・スプリント 8回: PTと業務内容, 装具等の支給体系、試験				
④テキスト・参考書	④教科書 装具学(石川朗編)中山書店 参考書 装具学(加倉井周一編), 医歯薬出版 装具治療マニュアル(加倉井周一編), 医歯薬出版 義肢装具のチェックポイント, 医歯薬出版				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験(100%)で判定				
⑥特記事項					

科目名	M079 義肢装具学実習	科目種別	理学・3年・必修	単位数	1
担当教員	山田 拓実、青木 主税 *、梅澤 慎吾 *	前期	火曜日 水曜日		4・5 時限 1・2 時限
①授業方針・テーマ	①義肢分野では切断高位とそれに対応する義足の種類, 各種パーツとその特性, および切断者に対する理学療法について講義と実習を行う。装具分野では短下肢装具の種類と適応について講義をする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②義足および義足を構成する各種パーツについて理解し, 義足のアライメント調整および下肢切断者に対する理学療法ができることを授業目標とする。装具分野では短下肢装具について理解し, 治療に活用できることを目標とする。				
③授業計画・内容	③ 1項目: 短下肢装具 2項目: 短下肢装具 3項目: 短下肢装具 4項目: 義足の歴史, 切断者の実態, 小児, 老人, 末梢循環障害切断者 5項目: 義足の歴史, 切断者の実態, 小児, 老人, 末梢循環障害切断者 6項目: 術後の断端管理, 各種パーツの分類と特性 7項目: 術後の断端管理, 各種パーツの分類と特性 8項目: 股関節離断用義足, 大腿義足およびその異常歩行 9項目: 膝義足, 下腿義足および足部義足 10項目: 膝義足, 下腿義足, およびその異常歩行 11項目: 運動療法 12項目: 義足アライメント実習 13項目: 義足アライメント実習 14項目: 義足アライメント実習 15項目: 実技試験				
④テキスト・参考書	④教科書:「リハビリテーション医学全書18切断と義肢」沢村誠志著 医歯薬出版 参考書:「下肢切断の理学療法」細田多穂編著 医歯薬出版				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験80%, 実技試験20%で総合評価する。				
⑥特記事項	⑥アライメント実習では実技ができる靴・服装を用意すること。				

科目名	M076 物理療法学	科目種別	理学・3年・必修	単位数	1
担当教員	古川 順光	前期・前半	火曜日	1, 2 時限	
①授業方針・テーマ	①温熱、寒冷、光線などの物理的手段が生体に与える影響について考える。さらにこれらの手段を治療方法として用いる場合の適応と禁忌について学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・温熱、寒冷、光線などの物理的手段が生体に与える影響について説明できる。 ・これらの治療方法の適応と禁忌について説明できる。				
③授業計画・内容	③1.温熱療法(生理学的効果) 2.温熱療法(ホットパック、パラフィン等) 3.寒冷療法(生理学的効果) 4.寒冷療法(アイスパック、アイシング) 5.光線療法(生理学的効果) 6.赤外線 7.紫外線 8.低出力レーザー療法				
④テキスト・参考書	④テキスト:「物理療法マニュアル」嶋田智明他編 医歯薬出版 参考書:「標準理学療法学・物理療法学」網本和編 医学書院 「理学療法ハンドブック第4版」細田多穂・柳澤健編 協同医書				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験(90%)、レポート(10%)の成績により評定				
⑥特記事項	⑥毎回各療法の簡単な実技を伴うので、常時実技のできる服装を用意すること				

科目名	M077 物理療法学実習	科目種別	理学・3年・必修	単位数	1
担当教員	来間 弘展、赤羽 秀徳 *	前期	月曜日 木曜日	1, 2 時限 3, 4 時限	
①授業方針・テーマ	①物理学や電気生理学に基づく、電気や水についての基礎理論を習得する。そのうえで、水・温熱・電気・超音波を治療に応用する理論について学び、その治療法について実技を通じて学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②水中運動療法、電気刺激療法、超音波療法、超短波療法、極超短波療法、牽引療法が安全に施行することができ、これらの物理学的・生理学的基盤が理解できることを授業目標とする。				
③授業計画・内容	③ 1項目: 電気生理学・クロナキシー 2項目: 疼痛学 3項目: TES・FES・低周波・および実習 4項目: 牽引療法 5項目: 牽引療法実習 6項目: 水治療法理論 7項目: 水治療法理論 8項目: 水治療法実習 9項目: 水治療法実習 10項目: 電気物理学・超音波理論 11項目: 電気物理学・超音波理論 12項目: 極超短波・干渉波など 13項目: 極超短波・干渉波など 14項目: 超音波実習 15項目: 極超短波・干渉波実習				
④テキスト・参考書	④教科書:「物理療法マニュアル」医歯薬出版株式会社 参考書:「標準理学療法学 物理療法学 第4版」医学書院 「理学療法学 ゴールドマスター・テキスト 物理療法学」メジカルビュー社				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験 75%, 小テスト 15%、課題 10%で総合評価する。 小テストは kibaco や授業時に行います。				
⑥特記事項	⑥実習内容によってはクラスを分けて実習を行う。 ⑦水治療法実習では水着を用意すること。 ⑧授業に臨むにあたっては、高校の物理(力学・エネルギー・電気)および1年時の生理学を復習しておくこと。これらを習得していることを前提に、授業を行います。				

科目名	M082 神経・筋系理学療法学	科目種別	理学・3年・必修	単位数	1
担当教員	網本 和	前期・前半		金曜日	
①授業方針・テーマ	①病態の理解に基づき評価法の選択と治療法の実施に重点を置く。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②筋原性および神経原性疾患の病態の理解と、理学療法における評価法、治療プログラム作成、実施法についての講義を行う。				
③授業計画・内容	③1回:筋原性および神経原性疾患の病態 2回:ギレンバレー症候群① 3回:ギランバレー症候群② 4回:CMT、FAP、重症筋無力症 5回:SLE、後縦靭帯骨化症 6回:多系統萎縮症、その他の難病 7回:Overwork weakness 8回:テスト及びまとめ				
④テキスト・参考書	④参考書:水澤英洋・編「神経筋疾患のとらえかた」文光堂				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験				
⑥特記事項	⑥内科学、神経内科学、機能能力診断学の復習が必要である。				

科目名	M070 神経・筋系理学療法実習	科目種別	理学・3年・必修 クラス指定	単位数	1
担当教員	池田由美、新井光男、信太奈美、真壁 寿*	前期		月曜日	
①授業方針・テーマ	①脊髄損傷、末梢神経損傷、筋原性疾患、および神経原性疾患について、病態、障害、評価法、治療プログラム、および理学療法実施方法について講義と実習により教授する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②脊髄損傷、末梢神経損傷、筋原性疾患、および神経原性疾患についての病態と障害を理解し、障害に対する理学療法(評価・治療法)を習得して、この疾患に対する理学療法を施行できることを授業目標とする。				
③授業計画・内容	③項目 1:脊髄損傷の障害像と合併症 項目 2:脊髄損傷に対する理学療法の目的・評価項目・治療プログラム 項目 3:脊髄損傷急性期の理学療法 項目 4:脊髄損傷に対する関節可動域訓練と筋力増強訓練 項目 5:脊髄損傷に対する床上動作訓練Ⅰ 項目 6:脊髄損傷に対する床上動作訓練Ⅱ 項目 7:脊髄損傷に対する床上動作訓練Ⅲ 項目 8:脊髄損傷に対する車椅子動作訓練 項目 9:脊髄損傷に対する歩行訓練と応用動作訓練 項目 10:末梢神経損傷の病態と分類 項目 11:末梢神経損傷の評価と治療 項目 12:進行性筋ジストロフィー症の理学療法 項目 13:多発性筋炎の理学療法 項目 14:筋萎縮性側索硬化症の理学療法 項目 15:実技試験とまとめ				
④テキスト・参考書	④教科書:「理学療法ハンドブック改訂第4版(第3巻)」協同医書出版, 2010. 「脊髄損傷マニュアル 第2版」医学書院, 1996. 「神経筋疾患」リハビリテーション医学講座 第13巻医歯薬出版株式会社, 1984.				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験(70%)、実技試験(30%)で総合評価する。				
⑥特記事項	⑥授業中に実技を行うので、実技のできる洋服・靴等を用意すること。				

科目名	M090 心肺系理学療法学	科目種別	理学・3年・必修	単位数	1
担当教員	古川 順光	前期・前半	火曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	①心肺(呼吸循環)系の基礎、エネルギー代謝、エネルギー消費量の推定法、糖尿病の病態・評価・理学療法について学習する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・心肺(呼吸循環)系の基礎が理解できる。 ・エネルギー消費量の計算ができる。 ・糖尿病の病態・評価・理学療法について理解できる。				
③授業計画・内容	③1.心肺系の基礎をなす運動器の構造 2.骨格筋の筋収縮機序 3.呼吸と循環(1) 4.呼吸と循環(2) 5.運動のエネルギー代謝 6.エネルギー消費量の推定法 7.糖尿病の病態・評価 8.糖尿病の理学療法				
④テキスト・参考書	④参考書: 運動学 丸山仁司編 中外医学社 運動処方指針(原著第8版) アメリカスポーツ医学会編 南江堂 考える理学療法[内部障害編]評価から治療手技の選択 丸山仁司・竹井仁・黒澤和生編 文光堂 呼吸・心臓リハビリテーション 高橋哲也・間瀬教史編 羊土社 ビジュアルレクチャー 内部障害理学療法学 高橋哲也編 医歯薬出版 理学療法ハンドブック第4版 細田多穂・柳澤健編 協同医書				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験の成績(100%)により評定				
⑥特記事項	⑥6.エネルギー消費量の推定法の回では電卓を必ず持参すること。				

科目名	M099 心肺系理学療法学実習	科目種別	理学・3年・必修	単位数	1
担当教員	山田 拓実、内山 覚*	後期・前半	木曜日 金曜日	3・4時限 1・2時限	
①授業方針・テーマ	①呼吸器疾患・循環器疾患患者の病理・医学的検査・治療について学習し、呼吸器・循環器疾患患者の運動負荷試験等の理学療法評価法と運動療法を学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②本講では虚血性心疾患などの循環器疾患と肺気腫などの呼吸器疾患患者に対する急性期および慢性期の理学療法を学ぶ。学生は各疾患の病態生理を理解し、リスクに配慮した評価および治療プログラムの立案ができることを授業目標とする。				
③授業計画・内容	③1項目:循環器疾患の評価 2項目:循環器疾患の治療プログラム 3項目:循環器疾患急性期の運動療法 4項目:循環器疾患急性期以降の運動療法 5項目:呼吸循環器疾患の運動負荷試験 6項目:呼吸器疾患の病態 7項目:呼吸器疾患の検査データの見方 8項目:呼吸器疾患の評価 9項目:呼吸器疾患の評価 10~12項目:包括的呼吸リハビリテーション 13項目:呼吸器疾患患者のADL指導 14項目:吸引・人工呼吸器 15項目:熱傷				
④テキスト・参考書	④指定なし。				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験80%、および課題20%で総合評価する。				
⑥特記事項	⑥運動負荷試験の実習では実技のできる靴・服装を用意すること。				

科目名	M093 小児理学療法学	科目種別	理学・3年・必修	単位数	1
担当教員	信太 奈美	後期・前半	水曜日		2 時限
①授業方針・テーマ	①二分脊椎等脳性麻痺以外で小児分野において理学療法の対象となる疾患について説明し、これらの疾患に対するプログラム立案の考え方について学習する。 また小児領域における臨床現場において現在問題とされていることから、注目をあびている研究結果などを紹介する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②小児分野での理学療法対象となる疾患を知り、これらの疾患に対して基本的なプログラム立案が行えることを目標とする。				
③授業計画・内容	③授業内容(シラバス) 項目1:ダウン症概説 項目2:ダウン症に対する介入方法 項目3:二分脊椎 項目4:摂食・嚥下 項目5:脳性麻痺に関する最近の研究動向 項目6:小児理学療法における研究動向 項目7:保育園見学実習 項目8:まとめ				
④テキスト・参考書	④テキスト:PT・OTのための発達障害ガイド 金原出版 2012 参考書:小児・発達期の包括的アプローチ 文光堂 2013				
⑤成績評価方法	⑤評価方法及び特に記すべき事項 筆記試験(80%)及びレポート(20%)で評価する。				
⑥特記事項					

科目名	M100 高齢者理学療法学	科目種別	理学・3年・必修	単位数	1
担当教員	山田 拓実	後期・後半	火曜日		3, 4 時限
①授業方針・テーマ	①高齢社会をむかえ、高齢者にかかわる諸課題に対して理学療法の果たす役割は重要である。これらの諸課題を明確にしつつ対策、対応方法に関しての考察を深めてゆく。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②高齢者におけるエイジングのメカニズム、身体的・心理的特性を理解し、高齢者に多く認められる疾病と障害を理解し、その特性に対応した理学療法的アプローチを学習する。				
③授業計画・内容	③ 1回:高齢社会の現状と課題 2回:高齢者の認知・身体機能特性 3回:高齢者の運動器機能障害へのアプローチ 4回:高齢者の運動器機能障害へのアプローチ 5回:高齢者の内部障害へのアプローチ 6回:認知症に対する理学療法 7回:介護予防分野での理学療法 8回:試験及びまとめ				
④テキスト・参考書	④テキスト:特に定めない。 参考書:講義初めに紹介する				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験またはレポート				
⑥特記事項	⑥整形外科学、神経内科学、脳神経外科学、機能能力診断学の復習が不可欠である。 講義資料を事前に配布するので予習、および資料以外の文献の積極的渉猟が必要である。				

科目名	M102 総合臨床実習 I	科目種別	理学・3年・必修	単位数	8
担当教員	網本 和、来間弘展、竹井 仁、池田由美、 新田 収、山田拓実、古川順光	後期			
①授業方針・テーマ	①学内で学習した理学療法学および 2 年次で実習した機能・能力診断学臨床実習等を基本に学外の医療機関で臨床実習を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②理学療法評価、治療計画・治療技術に関する知識・技術を統合し、問題解決を図り、臨床実習指導者の指導・監督のもとで基本的な理学療法を実施できることを目標とする。				
③授業計画・内容	③以下の内容について実施、指導等が行われる。 (ア)臨床実習前に、オリエンテーション、臨床実習指導者と事前打ち合わせを実施する。 (イ)臨床実習として、患者の持つ問題点およびその原因を把握するために評価を実施する。 (ウ)臨床実習として、評価結果に基づき具体的な治療計画を作成する。 (エ)臨床実習として、選択した治療方法で治療を実施できる。 (オ)臨床実習として、上記内容について記録でき、報告する。 (カ)臨床実習として、医療専門職として責任ある態度および行動をとる。 (キ)臨床実習後に、セミナーを実施する。				
④テキスト・参考書	④臨床実習で必要とするすべての専門書				
⑤成績評価方法	⑤総合臨床実習評価、セミナーおよび症例レポートで判定。				
⑥特記事項					

科目名	M069 徒手技術学 I	科目種別	理学・3年・必修	単位数	1
担当教員	新田 収	後期・前半	水曜日		1 時限
①授業方針・テーマ	①小児領域における運動療法の基礎的な考え方と臨床で用いる評価・治療法について脳性麻痺と筋ジストロフィーを中心に学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②小児疾患を理解し、このことを基礎として評価方法、治療方法を理解し、対象に合わせて選択し、実施することができる。				
③授業計画・内容	③1. 筋ジストロフィーの評価 2. 筋ジストロフィーの治療プログラム 3. 脳性麻痺の評価1 4. 新生児の評価 5. 発達障害概説 6. 発達障害の評価方法 7. 発達障害に対する介入方法 8. まとめ				
④テキスト・参考書	④教科書:PT・OTのための発達障害ガイド 金原出版 2012 参考書:小児・発達期の包括的アプローチ 文光堂 2013				
⑤成績評価方法	⑤筆記テスト 80%, 出席 20%				
⑥特記事項					

科目名	M096 徒手技術学Ⅰ実習	科目種別	理学・3年・必修 クラス指定	単位数	1
担当教員	竹井 仁、来間弘展、宇佐英幸、池田由美	後期		金曜日	3,4,5 時限
①授業方針・テーマ	①理学療法の基礎となる徒手療法に重点を置き、それらの特殊技術を用いた治療方法を疾患別に応用できることを学習目標とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②技術は、筋膜や筋、関節などを対象とするので、様々な疾患に応用可能であることを認識し、患者の状態変化に合わせて技術を施行する能力を習得する。				
③授業計画・内容	③内容 項目1. 徒手理学療法概論 項目2. 触圧覚刺激法・ Muscle Pain Relief 項目3. 筋膜リリース・筋膜マニピュレーション 項目4. 軟部組織モビライゼーション① 項目5. 軟部組織モビライゼーション② 項目6. 軟部組織モビライゼーション③ 項目7. 関節モビライゼーション① 項目8. 関節モビライゼーション② 項目9. 関節モビライゼーション③ 項目10. 神経系モビライゼーション① 項目11. 神経系モビライゼーション② 項目12. 関節トレーニング 項目13. 関節トレーニング(レポート提出) 項目14. 認知運動療法 項目15. 認知運動療法(レポート提出)				
④テキスト・参考書	④教科書: 「系統別・治療手技の展開第3版」竹井仁・黒澤和生 編 協同医書出版 「触診機能解剖カラーアトラス上・下巻」竹井仁 文光堂 参考書: 「整形徒手理学療法」砂川勇 医歯薬出版 「筋機能改善の理学療法とそのメカニズム第3版」望月久 他 ナップ 「関節トレーニング」井原英俊 協同医書出版				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験(70%)、実技試験(20%)、小テスト(5%)、レポート(5%)で総合評価する。 小テストに合格しない場合やレポート未提出の場合は、筆記試験と実技試験を受験出来ない。				
⑥特記事項	⑥授業中に実技を行うので、実技のできる洋服・水着・靴等(サンダル不可)を用意すること。 項目の順番は変更になることがあるので注意すること。				

科目名	M098 徒手技術学Ⅱ	科目種別	理学・3年・必修	単位数	1
担当教員	新井 光男	前期・前半		月曜日	3 時限
①授業方針・テーマ	①固有受容性神経筋促通法(PNF)に関する理論・技法を習得することを授業方針とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②整形外科および中枢神経系疾患に対して使用されるPNFの理論・技法を理解し、基本的手技を施行できることを授業目標とする。				
③授業計画・内容	③1回 理論①・上肢のPNF① 2回 理論②・上肢のPNF②(非常勤講師(予定)) 3回 理論③・上肢のPNF③ 4回 理論④・上肢のPNF④ 5回 理論⑤・下肢のPNF⑤(非常勤講師(予定)) 6回 理論⑥・下肢のPNF⑥ 7回 理論⑦・下肢のPNF⑦ 8回 まとめ				
④テキスト・参考書	④テキスト:「理学療法ハンドブック第4版第2巻」細田多穂 他編・協同医書出版				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験:70% 実技試験:30%(新井・非常勤講師)				
⑥特記事項					

科目名	M091 徒手技術学Ⅱ実習	科目種別	理学・3年・必修	単位数	1
担当教員	池田由美、新井光男、網本 和、富田昌夫*		後期・前半		水曜日
					3,4,5 時限
①授業方針・テーマ	①理学療法の基礎となる徒手的技術に重点をおき、これらの技術を用いた治療を疾患別に応用できることを学習目標とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②成人の脳障害例に応用しえる技術を中心に症例の急性期から慢性期に至る時期に合わせて治療を展開する基本を習得する。				
③授業計画・内容	③ 1回:脳障害の病態と評価・リスク管理 2回:嚥下障害 3回:神経生理学的治療法の基礎・ブルンストローム法 4回:片麻痺の理学療法1:麻痺肢の促通と抑制(1) 5回:片麻痺の理学療法2:麻痺肢の促通と抑制(2) 6回:片麻痺の理学療法3:基本動作と姿勢制御(1) 7回:片麻痺の理学療法4:基本動作と姿勢制御(2) 8回:ポバース法の理論・ポバースアプローチ 9回:クラインフォーゲル・バツハ法 10回:痙縮筋とPNF 11回:基本動作獲得のためのPNFアプローチ 12回:脳卒中患者の立位・歩行練習(PNFアプローチ) 13回:実技試験と解説				
④テキスト・参考書	④教科書:「理学療法ハンドブック」改訂第4版、協同医書 参考書:必要に応じて紹介する。				
⑤成績評価方法	⑤実技試験および筆記試験、レポート課題				
⑥特記事項	⑥臨床運動学、高齢者理学療法学の十分な学習が必要である。 実技可能な服装で臨むこと。				

科目名	M072 日常生活活動学実習	科目種別	理学・3年・必修	単位数	1
担当教員	池田 由美、来間 弘展、信太 奈美、 神尾 博代、加島 守*		後期		月曜日 ----- 木曜日
					1・2 時限 1・2 時限
①授業方針・テーマ	①日常生活活動学で学習したことを基に、疾患別特性による日常生活活動の評価と指導方法、および住宅改造について、講義と実技を通して教授する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②理学療法の対象となる疾患について、日常生活活動(食事・排泄・更衣・入浴・整容・起居移動)および、日常生活関連動作(コミュニケーション、家事、屋外移動)能力に関する評価方法と具体的な指導方法を習得する。また、住宅改造や装具・自助具などの福祉機器の選択へ展開できる知識を習得する。				
③授業計画・内容	③項目 1 ADLの評価 項目 2 高齢者 項目 3 脳卒中(1) 項目 4 脳卒中(2) 項目 5 脳卒中(3) 項目 6 頸髄損傷 項目 7 脊髄損傷 項目 8 関節リウマチ 項目 9 切断 項目 10 神経筋疾患 項目 11 呼吸機能障害・人工呼吸器使用者 項目 12 電動車椅子 項目 13 変形性関節症 項目 14 視覚障害 項目 15 重度身体障害と生活支援				
④テキスト・参考書	④教科書:「標準理学療法学 日常生活活動・生活環境学 第4版」鶴見隆正(編) 医学書院 2012 参考書: 「日常生活活動学テキスト(シンプル理学療法学シリーズ) 改訂第2版」細田多穂(監修)南光堂 「服部リハビリテーション技術全書 第3版」蜂須賀研二(編) 医学書院 (推奨) 「ADLとその周辺-評価・指導・介護の実際- 第3版」伊藤利之・鎌倉矩子(編) 医学書院 「動作分析 臨床活用講座-バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践」石井慎一郎 メジカルビュー社				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験 75%, 実技試験 25%				
⑥特記事項	⑥授業中に実技を行うので、実技のできる服装・靴等(サンダル不可)を用意すること。				

科目名	M088 理学療法学セミナー	科目種別	理学・3年・必修	単位数	1
担当教員	山田 拓実 他	後期・前半	月曜日	3, 4 時限	
①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容	<p>①②専門科目の知識を整理統合して、疾患別にリハビリテーションの流れをつかみ妥当な理学療法プログラムが作成できることを目標にする。この授業は、PBL(Problem Based Learning)形式で行う。</p> <p>③3限・与えられた課題症例をもとに、学生がテーマを見つけ出し、各自プレゼンテーションを行う。 ・これまでの授業のまとめではなく、より深い学習を行う。教わるのではなく、Learning！！ 4限・提示された課題症例の問題点をICF、ICIDHでそれぞれ抽出し、各自プログラムを立案する。 ・プログラムに対して質疑応答を行い、さらに、実技を行うことによってより理解を深める</p> <p>班別授業 項目 1 オリエンテーション 班別学習について 班分け 教員紹介 項目 2 ～項目 8 ①脳卒中②背髄損傷③リウマチ・OA(TKR 含む)④切断 ⑤骨折(大腿骨頸部骨折、THR 含む)⑥脳性麻痺・発達障害⑦呼吸・循環 項目 9 OSCE</p>				
④テキスト・参考書	④資料は適宜 参考書として専門教育で用いられた教科書、参考書を利用				
⑤成績評価方法	⑤発表レポート 50%、授業参加(積極性、応用力)20%、OSCE30%				
⑥特記事項	⑥セミナーを通じて知識の統合と実践の学習を行い応用力のある思考方法と態度を学ぶ。				

科目名	M087 理学療法研究法	科目種別	理学・4年・必修	単位数	1
担当教員	網本 和	前期・前半	水曜日		1, 2 時限
①授業方針・テーマ	①参考に提示する教科書に沿って、座学および討論等により理学療法の研究にかかわる方法論を学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②理学療法に関する研究の成果としての研究論文を精読できるように研究に関する方法論について学習する。また、在学中には卒業研究を行い、卒業後には研究活動が実施できるよう研究の基礎的方法論を習得する。				
③授業計画・内容	③1回：研究ということ 理学療法における研究 2回：研究疑問、仮説について 原著論文の書き方 文献の読み方 3回：資料の種類、論文の構成 4回：研究の進め方 研究のタイプ 5回：研究計画妥当性、信頼性について 6回：実験研究の方法 7回：統計の利用について 8回：抄録文献の要約				
④テキスト・参考書	④参考書：奈良勲「監修 理学療法研究法」第3版医学書院 ：草間悟「勉強・研究・発表の技法」南江堂 1996 必要に応じて示す。				
⑤成績評価方法	⑤出席 40% 課題レポート 60%				
⑥特記事項					

科目名	M258 地域理学療法学	科目種別	理学・4年・必修	単位数	1
担当教員	浅川 康吉	前期・前半	水曜日		3, 4 時限
①授業方針・テーマ	①対象者を患者ではなく地域社会で生活している生活者としてみる視点から展開する理学療法について講義する。機能障害の治療のみならず生活の活動性を高め、社会参加を促すための理学療法の進め方について講義する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②地域理学療法学の理念、考え方を理解するとともに、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、通所リハビリテーション施設などの施設における理学療法や在宅における理学療法に関する基本的知識を習得する。				
③授業計画・内容	③1回：地域理学療法学の理念・考え方 2回：多職種連携 3回：地域理学療法の方法論(1)(介護老人保健施設) 4回：地域理学療法の方法論(2)(通所施設) 5回：地域理学療法の方法論(3)(訪問) 6回：地域理学療法の方法論(4)(予防) 7回：地域理学療法に関する制度 8回：試験および解説				
④テキスト・参考書	④教科書：地域理学療法学(ゴールドマスター7)、メジカルビュー社 参考書：適宜紹介				
⑤成績評価方法	⑤期末試験 100%				
⑥特記事項					

科目名	M260 総合臨床実習Ⅱ	科目種別	理学・4年・必修	単位数	8
担当教員	網本和、来間弘展、竹井仁、池田由美、新田收、山田拓実、古川順光、新井光男	前期			
①授業方針・テーマ	①総合臨床実習Ⅰに続き、病院・施設において臨床指導者の助言指導の基、理学療法評価・分析・考察・治療プログラム作成までの一連の流れについて実践的に学び、本学において積み上げた理学療法に関する理論と技術の統合を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②到達目標は以下のとおりである。 (1) 臨床指導者の指導・監督のもとで問題解決をはかる基本を学び、理学療法における評価、治療計画の設定および治療行為ができること。 (2) 理学療法に関する記録と報告ができること。 (3) 与えられた課題に対してレポートを作成できること。 (4) 医療専門職として責任ある行動が取れること。				
③授業計画・内容	③学内では総合臨床実習Ⅱのオリエンテーションを行う。また、8週間の臨床実習終了後、小グループでのセミナーを行う。				
④テキスト・参考書					
⑤成績評価方法	⑤臨床実習での評価点と学内セミナー・レポート点によって評定を決定する。				
⑥特記事項					

科目名	M264 生活環境学	科目種別	理学・4年・必修 クラス指定	単位数	2
担当教員	浅川 康吉、橋本 美芽	前期・前半	月曜日 金曜日	3・4 時限 3・4 時限	
①授業方針・テーマ	①生活環境は、障害者・高齢者の生活・行動を規定する。生活機能障害を解決するためには計画的に生活環境を変化させる治療的な関わりが必要となる。その意味で福祉用具(リハビリテーション機器)の適応判定と活用方法の指導、住宅を適切に改造(住宅改修)するハウスアダプテーション理論の理解が必要となる。同時に生活環境整備に関する社会的、経済的制度的理解も必要である。理学療法士にとって必要な項目について講義する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②本講は生活障害のある障害者・高齢者の疾患・障害特性に応じた生活環境整備の手法を身につけることが目的である。				
③授業計画・内容	③1回:生活環境学と生活機能障害 2回:日常生活動作の分析 3回:福祉用具のプランニング 4回:住宅改造のプランニング 5回:症例がもつ問題点の考え方① 6回:症例がもつ問題点の考え方② 7回:家庭における不慮の事故 8回:事例検討 9回:生活環境の評価 10回:住宅の構造とモジュール 11回:生活環境整備の検討手法①(概要と住環境の基礎知識) 12回:生活環境整備の検討手法②(移動動作と移動空間) 13回:生活環境整備の検討手法③(排泄動作とトイレ) 14回:生活環境整備の検討手法④(入浴動作と浴室) 15回:生活環境整備の検討手法⑤(症例別検討)				
④テキスト・参考書	④教科書:地域理学療法学 メジカルビュー社 ゴールド・マスターテキスト 7 参考書は適宜紹介する。				
⑤成績評価方法	⑤評価は筆記試験(50%)、レポート(50%)などで判定する。				
⑥特記事項					

科目名	M259 職業倫理職場管理学	科目種別	理学・4年・必修 クラス指定	単位数	1
担当教員	浅川 康吉、新井 光男	後期・前半		木曜日	3,4 時限
①授業方針・テーマ	①保健医療職の一員である理学療法士は高い倫理観をもつこと、また職場において効果的・効率的な理学療法の必要性について講義する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②臨床の場に立つ理学療法士が身につけておくべき倫理、法律、制度について基礎知識を習得し、具体的事例による演習を通して質の高い職業倫理観、管理方法を身につけることを目標とする。				
③授業計画・内容	③1回:職業倫理 2回:治療設備と施設基準 3回:理学療法士卒前教育 4回:理学療法士卒後教育 5回:理学療法診療ガイドライン 6回:理学療法研究 7回:グループ学習と報告(1) 8回:グループ学習と報告(2)				
④テキスト・参考書	④授業時に適宜資料を配付する。				
⑤成績評価方法	⑤レポート(80%)、グループ学習内容(20%)で総合的に判定する。				
⑥特記事項					

科目名	M262 症例研究法	科目種別	理学・4年・選択	単位数	1
担当教員	竹井 仁	前期・前半		火曜日	3,4,5 時限
①授業方針・テーマ	①運動器疾患の症例に対する全身の筋バランスの診方とインバランスの修正方法について講義と実技を行う。また、症例提示によるグループ討論を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②提示された症例を通して、理学療法評価の実施・治療プログラム作成のためのクリニカルリーズニング能力を養う。				
③授業計画・内容	③内容 項目1:症例研究とは 項目2:全身の姿勢の評価 項目3:筋・筋膜のインバランス 項目4:関節への影響 項目5:症例検討① 項目6:症例検討② 項目7:症例検討③ 項目8:総合学習				
④テキスト・参考書	④教科書: 「正しく理想的な姿勢を取り戻す 姿勢の教科書」竹井仁 ナツメ社 その他:資料配付 参考書: 「運動機能障害症候群のマネジメント」竹井仁・鈴木勝監訳 医歯薬出版 「続・運動機能障害症候群のマネジメント」竹井仁・鈴木勝監訳 医歯薬出版				
⑤成績評価方法	⑤レポート内容(80%)、討論内容(20%)で総合評価する。				
⑥特記事項					

科目名	M268 地域理学療法実習	科目種別	理学・4年・選択 クラス指定	単位数	1
担当教員	浅川 康吉、池田 誠 *	通年	金曜日 木曜日、他	1・2時限 1時限、他	
①授業方針・テーマ	①前期は、地域理学療法と生活環境学で学んだ知識・技術に加えより広い地域理学療法の方法について講義する。後期は、学外実習とセミナーを行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②地域理学療法と地域リハビリテーションの実際について見学実習等により理解を深める。				
③授業計画・内容	③(前期・前半) 1回: 地域リハビリテーションの現状 2回: 地域連携における理学療法士の役割 3回: 地域連携(事例検討)(1) 4回: 地域連携(事例検討)(2) 5回: ケアカンファレンスとフォローアップ 6回: 困難事例への対応(解説) 7回: 困難事例への対応(討論、課題レポート作成準備) (後期) 8回: 見学実習準備会(9月中旬予定) 9~14回: 見学実習1(福祉機器関係)(10月上旬予定) 見学実習2(訪問理学療法などの施設見学(延3日間相当))(9月中旬~9月末予定) 15回: 見学実習成果発表会・解説				
④テキスト・参考書	④テキスト: 授業時に適宜資料を配布する。				
⑤成績評価方法	⑤レポート 50%, 見学実習状況 30%, 見学実習発表内容 20%				
⑥特記事項					

科目名	M301 高次神経機能障害理学療法	科目種別	理学・4年・選択	単位数	1
担当教員	網本 和	前期・前半	木曜日	3, 4時限	
①授業方針・テーマ	①高次神経機能障害を理解し、その評価方法と治療アプローチを学習する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②成人から老年期における疾病および障害は極めて広範囲にわたるが、とりわけ血管障害、腫瘍、外傷、などによって引き起こされる脳損傷(brain damage)症例にたいする評価と治療は理学療法士にとっての最大かつ主要な課題である。これらの症例の一次的な障害すなわち運動麻痺や感覚障害に対する理学療法についてはすでに講じられているので、この講義では更なる課題である意識、言語、認知、行為、知能などの高次神経機能障害に焦点をあてて述べる。本講義の目標は、高次神経機能障害の主要な症候に関する評価の実際と基本的治療理論				
③授業計画・内容	③1回: 神経解剖学との関連・診断学の進歩 2回: 失行症のメカニズムとアプローチ・運動の高次神経機能障害 3回: Pusher 現象のメカニズムとアプローチ 4回: 半側空間無視のメカニズム 5回: 半側空間無視への治療アプローチ 6回: その他の障害(前頭葉症状・遂行機能障害) 7回: 筆記試験・解説				
④テキスト・参考書	④教科書: 高次脳機能障害 ABC 文光堂 参考書: 高次脳機能障害学第2版 医歯薬出版				
⑤成績評価方法	⑤出席点 30% 質疑応答 20% 筆記試験 50%で評価する。				
⑥特記事項					

科目名	M261 卒業研究	科目種別	理学・4年・選択	単位数	4
担当教員	理学療法学科全教員	後期	水曜日 金曜日	1・2時限 1・2時限	
①授業方針・テーマ	①学生は、指導教員(教授・准教授)の指導のもとで研究テーマに沿った実験研究や調査研究等を一人で行い研究論文を作成する。研究テーマはスケジュールにそって指導教員と相談し、決定する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②研究テーマにそって必要な文献収集、研究計画の作成、研究実施能力、データ分析能力、論文作成能力などの養成を図る。到達能力は論文作成、ポスター作成および発表とする。				
③授業計画・内容	③3年次(後期後半): 指導教員の希望聴取、仮決定。 4年次(前期前半): 指導教員の決定。指導教員と学生で研究テーマ、進め方など指導開始。 研究開始 (後期後半): 12月: 卒業研究論文、抄録の提出及びポスターによる発表 1月: 判定				
④テキスト・参考書	④それぞれの研究テーマに即した実験・研究に関する資料、参考書、参考文献等は指導教員と相談しながら選定・選択する。				
⑤成績評価方法	⑤卒業研究中の取り組み、卒業研究論文及び発表内容(ポスターで掲示)などで総合的に評価する。				
⑥特記事項	⑥履修対象はクラス指定とする。				

科目名	M263 運動学習	科目種別	理学・4年・選択	単位数	1
担当教員	谷 浩明 *	後期・後半	月曜日	4, 5時限	
①授業方針・テーマ	①行動科学領域における運動学習理論の歴史的展開を学び、理論の背景となる問題を理解する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②近年の代表的な理論として、情報处理的アプローチ、運動プログラムにまつわるさまざまな理論の基本的な概念を学ぶ。また、運動を学習するうえでの理学療法への応用を考察する。				
③授業計画・内容	③1) 運動心理学という分野における運動制御・学習 2) 情報处理的アプローチとは何か 3) 運動プログラムの考え方と問題点 4) 一般運動プログラムとは何か 5) 運動学習の定義と実験パラダイム 6) 教示方法やフィードバックが学習に与える影響 7) 練習方法による学習効果の違い				
④テキスト・参考書	④教科書: 指定せず 参考書: R. A. シュミット著、監訳 調枝孝治 運動学習とパフォーマンス 大修館書店 5				
⑤成績評価方法	⑤出席(70%)、授業中の学習態度(30%)によって評価する。				
⑥特記事項					

科目名	M265 代謝系理学療法学	科目種別	理学・4年・選択	単位数	1
担当教員	石黒 友康 *	後期・前半	月曜日		3, 4 時限
①授業方針・テーマ	①理学療法におけるリスク管理として糖代謝異常を学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1. 学生は糖尿病を説明できる。 2. 学生は代謝異常の集積と血管障害を説明できる。 3. 学生はインスリン分泌とインスリン抵抗性のメカニズムを説明できる。 4. 学生は糖尿病に特有な合併症をのべ、検査の方法を述べる事が出来る。				
③授業計画・内容	③1. 学生は儉約遺伝子仮説を説明できる。 2. 学生はインスリン分泌の仕組みを述べる事が出来る。 3. 学生はインスリン抵抗性のメカニズムを説明できる。 4. 学生は糖毒性について説明できる。 5. 糖尿病合併症を述べ、説明できる(1)。 6. 糖尿病合併症を述べ、説明できる(2)。 7. 糖尿病に対する理学療法(リスク管理)を理解する。 8. 試験及び解説				
④テキスト・参考書	④特に指定しない。				
⑤成績評価方法	⑤試験を実施する。				
⑥特記事項					

科目名	M266 スポーツ系理学療法学	科目種別	理学・4年・選択	単位数	1
担当教員	小山 貴之 *	後期・前半	金曜日		4, 5 時限
①授業方針・テーマ	①スポーツ外傷・障害に対する理学療法評価・治療について学ぶ。スポーツ選手が復帰するまでの過程として、メディカル・リハビリテーションからアスレティック・リハビリテーションに至る段階的リハビリテーションについて学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②主要なスポーツ外傷・障害の受傷機転や理学療法評価・治療プログラムについて理解することができる。アスレティック・リハビリテーションの考え方について理解することができる。スポーツ選手に関わる医療スタッフやコーチとの連携、スポーツ現場での理学療法士の活動について理解することができる。				
③授業計画・内容	③内容 項目1:メディカルリハビリテーションとアスレティックリハビリテーション 項目2:競技種目特性と外傷・障害特性 項目3:スポーツ現場における活動 項目4:重症外傷の管理 項目5: Selective Functional Movement Assessment による動作評価 項目6:コレクティブエクササイズ 項目7:ウォーミングアップの手法 項目8:アスレティックリハビリテーション実践				
④テキスト・参考書	④授業時に資料を配布する。				
⑤成績評価方法	⑤評価:レポート・出席状況・授業態度などで総合評価する。				
⑥特記事項	⑥運動できる服装と靴を用意する。				